白石小学校だより

山口市立白石小学校
第５号
２０１９.９.２発行

雲のようにおおらかに　～失敗もまあ～いい！～

　最近しばしば料理をします。結構、失敗もします。ところが失敗をするとだんだん気をつけるポイントが納得でき、わかってきます。（煮込んでも焦げないけど、カレールーを入れるとすぐ焦げ付くなあ）（魚焼き網はしっかり熱くしないと、身がくっついてしまうなあ）等々･･･。これは料理に限りません。失敗しないことも大切ですし、失敗はうまくやると、多くの副産物をもたらしてくれそうです。

　誰しも失敗や挫折はうれしくありません。家庭や学校でもなるべく「失敗」を排除する方向に進みがちです。遠回りでもしっかり「失敗」をさせながらやっていこうかという時間的、心理的な余裕が無くなってきているからでしょうか。
　私たち大人が振り返り、『成長したなぁ』『がんばって乗り越えたな』と感じたときには、その前に少なからず失敗や挫折といった壁があったように思います。

　さまざまな失敗や挫折、未熟さを自分もまわりも受け入れ、乗り越えたり、乗り越えられなかったり、解決したりできなかったりしながら、そんなおおらかさに包まれていたからこそ、私たちは、少しずつ少しずつたくましくなることができていたように思います。

　最近、さまざまな報道をみていると、自分の「失敗」を避ける！人の「失敗」を赦さない！余白のない不寛容さが拡がってきているように感じます。大人も子どもも何か生きづらくなってきている気がします。
　私のような年齢のものには何か世の中があわただしくもなっているように感じます。
　余白のない「やらないといけないこと！やってはいけないこと！」でいっぱいになりそうです。

白石小の中庭の石碑に半世紀前の先輩方からのメッセージが届いています。
現在の私たちと子どもたちに向けて「雲のようにおおらかに」と刻まれています。

　まずは自分自身の時間や気持ちの余白を何とかつくることがスタートです。
　そして周りの失敗や挫折、未熟さをゆっくりと見守り、大丈夫だよ！と受け入れたり励ましたりする練習を、私たち大人はしっかりとしたいと思います。
　子どもたちの「失敗」や「挫折」はギフトです。失敗を大人がどうとらえ、子どもたちにどう伝えるかです。彼らの彼女らの未来の糧としていけるように、
　「雲のようにおおらかに」この先輩方からのメッセージと期待に応えたいです。

白石小学校　藤永 靖彦